

## 『お盆』と『年末年始』の家庭生活の提案！

我が子に“誇り”“自尊心”“自己肯定感情”を持たせよう！！

『唯一 かけがえのない 我が子観』の育成！！

### ジュッペちゃんの涙 (No.50)

平成 23 年 (2011 年) 7 月 7 日

大中里保育園 園長 塩川寿平

和解のモデルは家族！ 家庭教育を見直そう！ 誰の子なの！

#### ①まず、ノーベル賞作家の大江健三郎さんの言葉から。

『家庭とは、ほんとうに私たちが安心して失敗することのできる場所。失敗しても、それで迷惑をかけた相手に憎まれないと言うか、その上であらためてお互いに和解し合うことのできる場所、その基本的なモデルです。(「あいまいな日本の私」岩波新書新赤版 375)』

家庭ってありがたいナーと園長はつくづく思いました。『和解は持続性のモデル』『和解は可能性のモデル』『和解は明日への希望のモデル』『和解は世界平和のモデル』等、家庭って世界一の価値である『和解のモデル』だったんだと学びました。

そこで「ハッと」気がつきました。「劣化している家庭」「病んでいる家庭」「壊れている家庭」が、園児と和解できずに園児を不幸にしていると気がつきました。そこで園長は、家族と園児が和解するシステムを作りましょう！と、私たちの園独自の『家庭教育重点週間！』を作りました。その方法は、まず子どもの心理を理解するシステム作りです。

#### ②昔からのことわざに次のようなシステム作りがあります。

『子どもは親の言う通りには育たない。子どもは親のやる通りに育ちます！』です。

「言うだけ」「言葉だけ」の親は悔い改めてください。「アタッチメント(満足の愛撫)」「スキンシップ(愛情のふれあい)」「いっしょにお風呂に入る」「心をこめて絵本を読む」「サッカーをわが子とする」「おにぎりを持って白尾山に登り一緒に食べる」等、実行するお父さんやお母さんは良い親です。無意識ですが子どもは心から感謝して「お父さんありがとう！」「お母さんありがとう！」という気持ちが脳に記憶されます。ダメな両親は「水族館に連れていく(お父さんは車で寝ている)」「遊園地に連れていく(お母さんはベンチで見ている)」・・・これでは子どもは「水族館さんありがとう！」「遊園地さんありがとう！」で終わってしまいます。親と触れ合う実感は薄く、親には感謝しません。大事なことは『肉体的に触れ合って』『精神的に一緒になって』遊ぶことです。その時、親も喜びを感じながらです。ジュッペちゃんに言われたからイヤイヤするのはダメ。というわけで、大中里保育園では独自に『家庭教育重点週間！』を呼びかけるのです。



### ③よくある質問?・・・『家庭教育重点週間』ってなんですか?

家庭教育をして下さいというと、漢字や算数や英語を家庭で教えることだと考える人がいますがそれは未梢のことです。家庭教育とは【各家庭の誇りである文化（家風）を伝える人格教育】です。重点的にやっていただきたい事は家庭でなければできない内容です。家庭のしつけや団らんの劣化が著しい今日です。日頃、親は忙しく働いているのでせめて一緒に生活できる「お盆」と「年末年始」の2回を『家庭教育重点週間』としました。

【Ⅰ】お盆の8.12～16（5日間）お墓参りを中心に先祖の生き方や努力した話を伝えましょう。自分のルーツを知り父母に感謝し、自己肯定感情や自尊心を育むことができます。

【Ⅱ】年末年始の12.28～1.4（8日間）1年間の我が家の汚れを落とす大掃除。家族で除夜の鐘を聞く。神社やお寺にお参りをして家族の健康と安全を感謝する。家族そろって新年を迎え、お正月の遊びを沢山して家族の絆を深め、家族の帰属意識を深めましょう。

